平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月8日

上場会社名　株式会社 ヤマノホールディングス　　上場取引所　大
コード番号　7571　URL　http://www.yamano-hd.com/
代表者　(役職名) 代表取締役社長兼最高執行責任者　(氏名) 山野　義友
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長　(氏名) 金木　俊明　TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日　平成23年11月9日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　(平成23年11月17日開催予定　機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	11,226	△10.6	56	―	33	―	△36	―
23年3月期第2四半期	12,556	△21.9	△93	―	△104	―	△237	―

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　△41百万円　(―%)　23年3月期第2四半期　△298百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△1.34	―
23年3月期第2四半期	△8.28	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	10,919	1,928	3.0
23年3月期	11,328	1,984	3.2

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　322百万円　23年3月期　361百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
24年3月期	―	0.00			
24年3月期(予想)			―	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,680	△8.8	350	84.2	280	81.8	130	―	3.33

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	32,887,058 株	23年3月期	32,707,058 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	15,966 株	23年3月期	15,966 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	32,743,715 株	23年3月期2Q	29,602,677 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、1株当たり当期純利益の算定方法につきましては、当期純利益の予想値から普通株主に帰属しない金額(優先配当額)を控除して算出しております。

・決算説明会の資料及び内容は、決算説明会終了後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る１株当たりの配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりです。

Ａ種優先株式

	１株当たり配当金					配当金総額（合計）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円
22年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
23年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
24年３月期（予想）	―	―	―	5,000,000 00	5,000,000 00	

（注）Ａ種優先株式の発行数は１株であります。また、平成23年３月期期末配当金は、当社定款に規程される分配可能額(5,000千円)に達しなかったため配当は行いませんが、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額5,041千円は累積され、当期の配当額5,000千円と合わせて優先株主に対して配当を行う予定であります。

Ｂ種優先株式

	１株当たり配当金					配当金総額（合計）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円
22年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
23年３月期	―	―	―	0 00	0 00	―
24年３月期（予想）	―	―	―	10,556,564 20	10,556,564 20	

（注）Ｂ種優先株式の発行数は１株であります。また、平成23年３月期期末配当金は、当社定款に規程される分配可能額(10,556千円)に達しなかったため配当は行いませんが、当社定款に定められた配当額及び優先株式の累積条項に従い、前期までの累積配当額10,643千円は累積され、当期の配当額10,556千円と合わせて優先株主に対して配当を行う予定であります。

○添付資料の目次

１．　当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 5
２．　サマリー情報（その他）に関する事項 …… 5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
３．　四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 9
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書
第２四半期連結累計期間 ……10
（４）継続企業の前提に関する注記 ……12
（５）セグメント情報等 ……12
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……13

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの企業の生産活動の急速な回復や、生活必需品を中心に節電や省エネ対策製品の需要増により、景気は持ち直しの動きを見せたものの、過去最高水準の円高や世界経済の減速懸念などを要因として先行きは不透明な状況にあり、雇用・所得環境の厳しさは続き、消費マインドの低迷は依然として続くものと見られています。

当社グループが属する美容業界や衣料品業界におきましては、クールビズ関連での一時的な需要増があったものの、猛暑や台風などの天候不順の影響もあり厳しい状況が続いております。

そのような状況のもと、当社グループは、第二創業の２年目となる当期におきましても、前期同様「ソフトと価値の提供」をテーマとした、商品以外のサービス・満足の提供を目指した施策を引続き実施し、来期以降の出店・拡大に向けたビジネスモデルの確立に取り組んでおります。

当第２四半期連結累計期間においては、スポーツ事業におけるユーザー体験イベントの開催数増、和装事業における「前楽結び着方教室」の開催店舗拡大・生徒数の増加、美容事業における差別化メニュー「山野式ヘッドスパ」導入店増など、「ソフトと価値の提供」戦略を強化してまいりました。

店舗開発としては、美容事業において５月に１店舗の新規出店、６月に２店舗の既存店リニューアルを実施、スポーツ事業において６月から８月まで新たなビジネスモデルケースとしての期間限定営業、９月に１店舗の新規出店をいたしました。

また、ＤＳＭ事業において「東日本に元気を取り戻そう」をテーマに開催した催事が成功したことや、宝飾事業において金相場の高騰による地金買取が増加したことなどにより、連結売上高は期初計画を上回ることとなりました。

その結果、当第２四半期連結累計期間における売上高は112億26百万円（前年同四半期比10.6％減）、前期の店舗閉鎖等により前年同四半期比では減収となりましたが、堀田丸正グループの構造改革により事業効率が向上し、営業利益は56百万円（前年同四半期は営業損失93百万円）、経常利益は33百万円（前年同四半期は経常損失１億４百万円）と黒字転換し、四半期純損失は36百万円（前年同四半期は四半期純損失２億37百万円）と大幅に改善いたしました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

1)「美容事業」

美容事業につきましては、他社との差別化戦略として、ターゲットを明確化した店舗設計である「ファミリーサロン」「アンチエイジングサロン」への店舗改修や新規出店を実施しております。また他社との差別化メニューとして「山野式ヘッドスパ」のサービス提供を開始、当第２四半期連結累計期間においては25店舗に導入いたしました。美容業界において頭皮ケア関連の需要が伸びている中、「山野式ヘッドスパ」の獲得件数も順調に推移し、客単価が前年同四半期比増となるなどの成果が現れております。

当第２四半期連結累計期間においては、「ファミリーサロン」を５月に心斎橋に新規出店、「アンチエイジングサロン」へのリニューアルを６月に２店舗実施いたしました。

美容事業を営む子会社は２月決算であるため、３月度震災発生後の来店客数の著しい減少や、計画停電による営業時間短縮などにより売上が落ち込み、４月以降は回復を見せたものの、猛暑や天候不順による外出控えなどにより、来客数、売上高ともに前年同四半期比減少となりました。

この結果、美容事業の売上高は、15億16百万円（前年同四半期比6.1％減）、セグメント利益は１億35百万円（前年同四半期比15.4％減）となりました。

2) 「スポーツ事業」

スポーツ事業につきましては、ソフトと価値の提供として①専門店ならではの提案力の強化、②体験サービスイベントの開催、③メンテナンスサービスの商品化、④ＷＥＢ通販の拡大を行っております。

６月から８月まで期間限定で「スポーツワールドＨＡＴ神戸店」をオープン、“時流、トレンドに合わせたスポット出店”という新たなビジネスモデルケースとして営業し、期間中の売上は計画を上回る結果となりました。また、“美と健康をナビゲートする新しいスタイルのスポーツショップ”をコンセプトとした「ヤマノスポーツ柏店」を９月に新規オープンいたしました。

当第２四半期連結累計期間におきましては、防災関連商品を中心にアウトドア関連の売上高は売上が伸長した一方、原発事故の影響によりマリン、ダイビング関連商品の売上が伸び悩むこととなりました。

この結果、前期における店舗閉鎖の影響もあり、スポーツ事業の売上高は17億72百万円（前年同四半期比7.2%減）セグメント損失は88百万円（前年同四半期はセグメント損失58百万円）となりました。

3) 「ＤＳＭ事業」

ＤＳＭ事業につきましては、ミシン点検サービスや布団の丸洗いクリーニングなどのサービス機能を拡充し、お客様との関係性の深耕に努め、催事集客強化による販売施策を行っております。また、1909プラザ事業部とショッピングプラザ事業部のシステム統合に伴い、ショッピングプラザ事業部においても積立会員の募集を開始いたしました。

３月に発生した震災の影響により、当第２四半期連結累計期間において催事の中止や延期が発生いたしましたが、取引先に働きかけ東北支援催事の追加開催などに取り組んだ結果、７月以降の催事販売売上が回復してまいりました。訪問販売につきましては、津波の被害があった地域や原発関連の区域での活動縮小や、消費意欲の減退により売上高は減少いたしました。

この結果、前期における事業所の統廃合の影響もあり、ＤＳＭ事業の売上高は、18億７百万円（前年同四半期比10.3%減）となり、セグメント利益は45百万円（前年同四半期比49.8%減）となりました。

4) 「和装事業」

和装事業につきましては、①店頭における着方教室「前楽結び着方教室」、②きものパーティなど「着る機会の提供」、③お手入れサービス「きものクリニック」の３施策を柱として、顧客の活性化、定着化に努めております。

当第２四半期連結累計期間においては、「前楽結び着方教室」を全40店舗中35店舗で開講、きものクリニックを37店舗で実施するなど、「ソフトと価値の提供」戦略を強化してまいりました。

昨年度より取り組んできた上記施策が奏功し、７月度に開催した年間最大の催事「Aiko japan」や西日本での「祇園祭」では売上高、客単価ともに前年を上回ることとなりました。また高級呉服売上の構成比が前年同四半期比で増加し、売上総利益率が改善いたしました。

この結果、前期における店舗閉鎖の影響もあり、和装事業の売上高は、13億63百万円（前年同四半期比18.6%減）となりましたが、セグメント利益は７百万円（前年同四半期はセグメント損失７百万円）と黒字転換いたしました。

5) 「卸売事業」

卸売事業につきましては、震災の影響から個人消費が低迷した事に加え、寝装部門において量販店との取組を見直したことにより売上高は減少いたしましたが、事業所の移転・統合による賃料の削減、前述の取引見直しに伴う物流コストの大幅な削減等により、利益は改善いたしました。

この結果、卸売事業の売上高は、37億47百万円（前年同四半期比9.4%減）となりましたが、セグメント損失は９百万円（前年同四半期はセグメント損失１億13百万円）となりました。

6)「宝飾事業」

宝飾事業につきましては、店外大型催事への参加や店頭催事の絞込みなど事業効率の向上に努めてまいりました。また、金相場の高騰により地金買取が増加した影響もあり、セグメント利益は前年同四半期を上回り黒字転換いたしました。

この結果、前期における店舗閉鎖の影響もあり、宝飾事業の売上高は、５億72百万円（前年同四半期比5.8%減）となり、セグメント利益は14百万円（前年同四半期はセグメント損失10百万円）となりました。

7)「その他の事業」

その他の事業の事業内容は、主にかねもり事業部の代理店を通じた呉服等を中心とした催事販売、RC卸事業部の健康器具卸、堀田（上海）貿易有限公司の意匠撚糸の販売、株式会社アールエフシー及び株式会社ヤマノ1909セイビングの前払式特定取引業による手数料収益であります。

その他の事業の売上高は、平成22年５月に化粧品卸事業を譲渡した影響により、４億45百万円（前年同四半期比25.2%減）となりましたが、セグメント損失は９百万円（前年同四半期はセグメント損失61百万円）と改善いたしました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末における総資産は、109億19百万円となり、前連結会計年度末比４億８百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金５億22百万円の減少のほか、商品及び製品２億９百万円の増加によるものであります。

負債につきましては、89億91百万円となり、前連結会計年度末比３億52百万円の減少となりました。その主な要因は、有利子負債２億55百万円、未払金１億46百万円の減少によるものであります。なお、純資産は19億28百万円となりました。

第２四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フロー

当第２四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益が３百万円となり、たな卸資産の増加等の支出が増加したことにより、前年同四半期連結会計期間に比べ２億33百万円減少し７億35百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、２億83百万円（前年同四半期は２億99百万円の支出）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益３百万円に対し、たな卸資産の増加２億22百万円、利息の支払額65百万円、法人税等の支払57百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、48百万円（前年同四半期は１億67百万円の収入）となりました。

これは主に、投資有価証券の売却及び償還による収入40百万円、差入保証金の回収による収入72百万円、敷金・保証金の差入による支出30百万円、有形固定資産の取得による支出50百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、２億69百万円（前年同四半期は１億７百万円の支出）となりました。

これは主に、長期借入金による収入60百万円、社債の償還による支出１億53百万円、長期借入金の返済による支出95百万円、短期借入金の返済等による支出66百万円、によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年３月期の通期業績予想につきましては、前回（平成23年５月18日発表「平成23年３月期決算短信」に記載しております。）の内容から変更はありません。

今後、業績予想に変更の必要が生じた場合は、速やかにお知らせいたします。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しておりますが、実際の数値は今後様々な要因により予想数値と異なる結果になる可能性があります。

２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,786,979	1,263,986
受取手形及び売掛金	2,513,629	2,529,699
商品及び製品	2,761,590	2,970,812
仕掛品	23,015	31,716
原材料及び貯蔵品	82,216	84,118
その他	390,647	339,017
貸倒引当金	△90,212	△74,031
流動資産合計	7,467,866	7,145,318
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,962,278	1,930,790
減価償却累計額	△1,220,375	△1,202,843
建物及び構築物（純額）	741,903	727,946
機械装置及び運搬具	39,750	39,529
減価償却累計額	△37,675	△37,796
機械装置及び運搬具（純額）	2,074	1,733
工具、器具及び備品	670,107	654,958
減価償却累計額	△607,219	△596,411
工具、器具及び備品（純額）	62,887	58,546
土地	982,245	982,245
リース資産	14,262	20,750
減価償却累計額	△1,942	△3,476
リース資産（純額）	12,320	17,273
有形固定資産合計	1,801,431	1,787,745
無形固定資産		
その他	90,088	75,046
無形固定資産合計	90,088	75,046
投資その他の資産		
投資有価証券	152,694	116,459
長期貸付金	72,131	64,191
敷金及び保証金	1,651,351	1,605,145
その他	870,663	853,643
貸倒引当金	△777,897	△727,599
投資その他の資産合計	1,968,943	1,911,841
固定資産合計	3,860,463	3,774,632
資産合計	11,328,330	10,919,951

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年３月31日)	当第２四半期連結会計期間 (平成23年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,138,162	3,169,823
短期借入金	2,152,815	2,086,492
1年内返済予定の長期借入金	234,453	261,628
1年内償還予定の社債	187,500	145,000
未払金	971,351	824,544
前受金	953,798	992,486
未払法人税等	79,560	53,056
賞与引当金	20,300	24,540
返品調整引当金	20,184	16,207
ポイント引当金	77,048	69,334
株主優待引当金	4,101	4,101
その他	660,535	691,357
流動負債合計	8,499,811	8,338,573
固定負債		
社債	111,250	―
長期借入金	153,035	90,675
長期未払金	227,553	317,136
繰延税金負債	951	820
退職給付引当金	96,837	595
資産除去債務	174,304	174,238
負ののれん	26,791	19,899
その他	53,169	49,094
固定負債合計	843,892	652,459
負債合計	9,343,703	8,991,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,573,246	1,576,230
資本剰余金	1,997,697	2,000,681
利益剰余金	△3,115,932	△3,151,937
自己株式	△3,019	△3,019
株主資本合計	451,992	421,955
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10,391	△7,197
為替換算調整勘定	△79,726	△91,945
その他の包括利益累計額合計	△90,117	△99,143
新株予約権	1,044	1,016
少数株主持分	1,621,707	1,605,090
純資産合計	1,984,626	1,928,919
負債純資産合計	11,328,330	10,919,951

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
売上高	12,556,934	11,226,342
売上原価	7,374,880	6,643,863
売上総利益	5,182,054	4,582,479
販売費及び一般管理費	5,276,034	4,525,522
営業利益又は営業損失（△）	△93,980	56,957
営業外収益		
受取利息	5,017	3,908
受取地代家賃	8,644	9,856
協賛金収入	8,779	8,650
負ののれん償却額	16,928	6,922
その他	53,924	32,081
営業外収益合計	93,295	61,418
営業外費用		
支払利息	77,139	63,853
手形売却損	414	517
その他	26,719	20,044
営業外費用合計	104,274	84,415
経常利益又は経常損失（△）	△104,959	33,959
特別利益		
固定資産売却益	123	196
貸倒引当金戻入額	5,468	－
債務免除益	17,388	－
その他	17,141	4
特別利益合計	40,122	200
特別損失		
固定資産除却損	4,963	6,802
災害による損失	－	3,592
減損損失	2,533	741
店舗閉鎖損失	26,722	6,236
事務所移転費用	－	10,836
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	104,973	－
その他	33,413	2,554
特別損失合計	172,606	30,764
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△237,442	3,395
法人税、住民税及び事業税	39,800	36,663
法人税等合計	39,800	36,663
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△277,242	△33,267
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△39,934	2,737
四半期純損失（△）	△237,308	△36,004

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△277,242	△33,267
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10,431	4,022
為替換算調整勘定	△10,891	△12,035
その他の包括利益合計	△21,323	△8,012
四半期包括利益	△298,566	△41,280
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△254,040	△45,733
少数株主に係る四半期包括利益	△44,525	4,453

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△237,442	3,395
減価償却費	70,380	69,720
減損損失	2,533	741
負ののれん償却額	△16,928	△6,922
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△14,438	△96,170
返品調整引当金の増減額（△は減少）	△3,720	△3,976
賞与引当金の増減額（△は減少）	△6,550	4,240
ポイント引当金の増減額（△は減少）	10,568	△7,713
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△37,596	△66,477
受取利息及び受取配当金	△5,017	△3,908
支払利息	77,139	63,853
手形売却損	414	517
有形固定資産除却損	4,963	6,802
有形固定資産売却損益（△は益）	△123	△196
債務免除益	△17,388	－
売上債権の増減額（△は増加）	106,276	△15,281
たな卸資産の増減額（△は増加）	8,664	△222,432
仕入債務の増減額（△は減少）	18,973	31,693
前受金の増減額（△は減少）	△35,744	38,782
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	104,973	－
その他	△170,127	40,675
小計	△140,189	△162,657
利息及び配当金の受取額	3,828	3,609
利息の支払額	△78,317	△65,981
手形売却に伴う支払額	△414	△517
法人税等の支払額	△84,176	△57,625
営業活動によるキャッシュ・フロー	△299,269	△283,172
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△68,386	△50,889
有形固定資産の売却による収入	123	200
無形固定資産の取得による支出	△17,290	△1,359
投資有価証券の取得による支出	△912	△768
投資有価証券の売却及び償還による収入	－	40,562
貸付けによる支出	△1,200	△250
貸付金の回収による収入	17,022	7,745
敷金及び保証金の差入による支出	△23,530	△30,954
差入保証金の回収による収入	235,591	72,945
担保預金の増減額（△は増加）	20,566	11,036
その他	5,656	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	167,640	48,267
財務活動によるキャッシュ・フロー		

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
短期借入金の純増減額（△は減少）	84,926	△66,323
長期借入れによる収入	－	60,000
長期借入金の返済による支出	△78,564	△95,184
社債の償還による支出	△100,000	△153,750
新株予約権の行使による株式の発行による収入	26,400	5,940
少数株主への配当金の支払額	△40,586	△20,291
子会社の自己株式の取得による支出	△103	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	△107,927	△269,649
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,495	△7,401
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△245,051	△511,956
現金及び現金同等物の期首残高	1,214,197	1,247,730
現金及び現金同等物の四半期末残高	969,145	735,773

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ 前第２四半期連結累計期間(自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,615,316	1,911,402	2,014,154	1,673,969	4,138,060
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	107,008
計	1,615,316	1,911,402	2,014,154	1,673,969	4,245,069
セグメント利益又は損失(△)	160,007	△58,582	91,395	△7,129	△113,551

	報告セグメント		その他（注１）	合計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	宝飾	計				
売上高						
外部顧客への売上高	607,547	11,960,451	596,482	12,556,934	―	12,556,934
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	107,008	13,226	120,234	△120,234	―
計	607,547	12,067,460	609,708	12,677,168	△120,234	12,556,934
セグメント利益又は損失(△)	△10,189	61,949	△61,588	360	△94,341	△93,980

（注）１ その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業及びその他事業等を含んでおります。

２ セグメント利益の調整額△94,341千円には、セグメント間取引消去10,642千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△111,939千円及び棚卸資産の調整額6,955千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３ セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

（単位：千円）

	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売	宝飾	その他	全社・消去	合計
減損損失	―	―	―	1,146	―	1,201	185	―	2,533

（注）その他の金額はすべてその他事業に係る金額であります。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,516,561	1,772,893	1,807,439	1,363,170	3,747,900
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	―	―	―	64,090
計	1,516,561	1,772,893	1,807,439	1,363,170	3,811,991
セグメント利益又は損失(△)	135,335	△88,366	45,851	7,027	△9,614

	報告セグメント		その他(注１)	合計	調整額(注２)	四半期連結損益計算書計上額(注３)
	宝飾	計				
売上高						
外部顧客への売上高	572,453	10,780,419	445,923	11,226,342	―	11,226,342
セグメント間の内部売上高又は振替高	―	64,090	9,629	73,720	△73,720	―
計	572,453	10,844,510	455,552	11,300,062	△73,720	11,226,342
セグメント利益又は損失(△)	14,366	104,600	△9,748	94,852	△37,894	56,957

(注) １　その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額△37,894千円には、セグメント間取引消去2,921千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△45,420千円及び棚卸資産の調整額4,604千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３　セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	ＤＳＭ	和装	卸売	宝飾	その他	全社・消去	合計
減損損失	―	―	―	741	―	―	―	―	741

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。